Panasonic®

取扱説明書

パーソナルコンピューター

品番 **CF-30** シリーズ

もくじ

お使いになる前に

上手にお使いいただくために

困ったときは

詳しい操作方法については、「画面で見るマニュアル」をお読みください。
画面で見るマニュアルを読むには
➔ 13 ページ「画面で見るマニュアル」

保証書別添付

このたびはパナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

・説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
・ご使用前に「安全上のご注意」（3 ～ 6 ページ）を必ずお読みください。
・保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

本書について

■ 表記について

お願い :	安全にお使いいただくための情報を記載しています。
お知らせ :	お使いいただくうえで便利な情報を記載しています。
Enter :	[Enter] キーを押すことを意味します。
Fn + F5 :	[Fn] キーを押しながら、[F5] キーを押すことを意味します。
[スタート] - [検索] :	画面上の [スタート] をクリックした後、[検索] をクリックすることを意味します。 ダブルクリックが必要な場合もあります。
→ :	本書内や、パソコン本体に保存されている『操作マニュアル』などの参照先を意味します。
:	画面で見るマニュアルを意味します。

- 本書では名称等を以下のように表記します。
  - 「Microsoft® Windows® XP Professional Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載」を「Windows」または「Windows XP」と表記します。
  - DVD-ROM & CD-R/RW ドライブ、DVD マルチドライブを「CD/DVD ドライブ」と表記します。
- 本書では画面モードを以下のように表記します。（ ）内の表記は「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」画面の用語を示します。 画面を表示するには、[スタート] - [コントロールパネル] - [コントロールパネルのその他オプション] -[Intel(R) GMA Driver for Mobile] をクリックしてください。
  - 「内部 LCD」（ノートブック）： 本機のディスプレイ
  - 「外部ディスプレイ」（PC モニタ）： 本機と接続した外部ディスプレイ
  - 「同時表示」(Intel® Dual Display Clone)： 内部 LCD と外部ディスプレイに同じ画面を表示する機能
  - 「拡張デスクトップ」： 内部 LCD と外部ディスプレイをひと続きの作業領域として使う機能
- コンピューターの管理者の権限でログオンしないと使えない機能や表示できない画面があります。
- 別売品の最新情報については、カタログなどをご覧ください。
- 本書の内容に関しましては、事前の予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の一部またはすべてを無断転載することを禁止します。
- 落丁、乱丁はお取り換えします。
- 本書のサンプルで使われている氏名、住所などは架空のものです。
- 本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。

■ 商標

Microsoft とそのロゴ、Windows® 、Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米およびその他の国における登録商標です。
Intel、Core、Viiv、Centrino は、米国 Intel Corporation の商標または登録商標です。

SDHC ロゴは商標です。

Acrobat、Adobe ロゴ、Adobe Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
PhoenixBIOS、Phoenix Always、Recover Pro は、Phoenix Technologies Ltd. の商標または登録商標です。
Bluetooth ™ は、その権利者が所有している商標であり、パナソニック株式会社はライセンスに基づき使用しています。
Panasonic は、パナソニック株式会社の登録商標です。
その他の製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

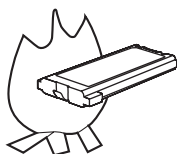
■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や障害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

表示	内容
⚠ 危険	この表示の欄は､｢死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される｣内容です。
⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

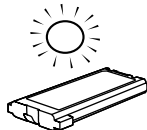
■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

絵表示	内容
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

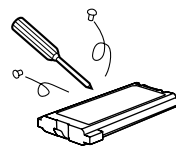
バッテリーパックに関する注意　⚠ 危険

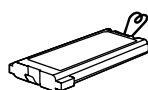
火中に投入したり加熱したりしない

発熱･発火･破裂の原因になります。

火のそばや炎天下など、高温の場所で充電･使用･放置をしない

液漏れ・発熱・発火・破裂の原因になります。

クギを刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしたりしない

液漏れ・発熱・発火・破裂の原因になります。

- 強い衝撃が加わったら、すぐに使用をやめてください。

プラス（+）とマイナス（−）を金属などで接触させない

- 発熱・発火・破裂の原因になります。
- ネックレス、ヘアピンなどといっしょに持ち運んだり保管したりしないでください。

必ず、指定のバッテリーパックを使用する

指定（付属および指定の別売り商品）以外のバッテリーパックを使用すると、発熱・発火・破裂の原因になります。

指定の方法で充電する

指定の方法で充電しないと、液漏れ・発熱・発火・破裂の原因になります。

付属のバッテリーパックは、必ず本機で使用する

CF-30 シリーズ専用のバッテリーパックです。CF-30 シリーズ以外に使用すると、液漏れ･発熱･発火･破裂の原因になります。

バッテリーパックが劣化したら新品と交換する

劣化したバッテリーパックを使用し続けると、発熱・発火・破裂の原因になります。

⚠警告

異常が起きたらすぐに電源プラグとバッテリーパックを抜く

・破損した
・内部に異物が入った
・煙が出ている
・異臭がする
・異常に熱い
などの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。

- 異常が起きたら、すぐに本機の電源を切って電源プラグを抜き、その後バッテリーパックを取り外して、販売店にご相談ください。

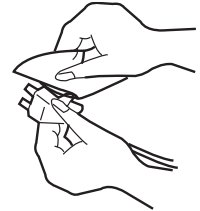
電源コード・電源プラグ・ACアダプターを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない）

禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

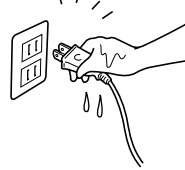
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

電源プラグのほこりなどは定期的にとる

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
  長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ぬれた手で電源プラグの抜き挿しはしない

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に挿し込む

挿し込みが不完全ですと、感電や、発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

改造しないまた、分解しない

分解禁止

⚠警告
高電圧に注意 本機を分解・改造しない

[本体に表示した事項]

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。内部の端子や基板に触れたり、異物を入れたりしないでください。また、改造や分解は火災の原因にもなります。

雷が鳴りはじめたら、本機やケーブルに触れない

感電の原因になります。

水、湿気、湯気、ほこり、油煙などの多い場所で使用する場合は、コネクターカバーをしっかりと閉じる

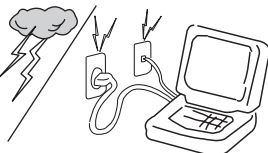
内部に異物が入ると、火災・感電の原因になります。

- 内部に異物が入った場合は、すぐに電源を切って電源プラグを抜き、その後バッテリーパックを取り外し、販売店にご相談ください。

SD メモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かない

禁止

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

長時間直接触れて使用しない

禁止

本機や AC アダプターの温度の高い部分に長時間、直接触れていると、低温やけど [*1] の原因になります。

⚠ 警告

航空機内では電源を切る [*2]

運航の安全に支障をきたすおそれがあります。航空機内での使用については、航空会社の指示に従ってください。

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

病院内や医用電気機器のある場所では電源を切る [*2]**（手術室、集中治療室、CCU** [*3] **などには持ち込まない）**

本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

満員電車の中など混雑した場所では、付近に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性があるので、電源を切る [*2]

電波によりペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

植込み型心臓ペースメーカーの装着部位から 22 cm 以上離す

電波によりペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

*1 血流状態が悪い人（血管障害、血液循環不良、糖尿病、強い圧迫を受けている）や皮膚感覚が弱い人（高齢者）などは、低温やけどになりやすい傾向があります。

*2 やむをえずこのような環境でパソコン本体を使用するときは、無線スイッチを OFF 側にスライドさせ、無線 LAN の電源を切ってください。ただし、航空機の離着陸時など、無線 LAN の電源を切ってもパソコンの使用が禁止されている場合もありますので、注意してください。

*3 CCU とは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。

⚠ 注意

電源プラグを接続したまま移動しない

禁止

電源コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

- 電源コードが傷ついた場合は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

電源コードは、プラグ部分を持って抜く

電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

1 時間ごとに 10 ～ 15 分間の休憩をとる

長時間続けて使用すると、目や手などの健康に影響を及ぼすことがあります。

LAN コネクターに電話回線や指定以外のネットワークを接続しない

禁止

LAN コネクターに以下のようなネットワークや回線を接続すると、火災・感電の原因になることがあります。

- 1000 BASE-T、100 BASE-TX、10 BASE-T 以外のネットワーク
- 電話回線（IP 電話、一般電話回線、内線電話回線（構内交換機）、デジタル公衆電話など）

炎天下の車中などに長時間放置しない

禁止

炎天下の車中や直射日光の当たる場所など極端に高温になる場所に放置すると、キャビネットが変形したり、内部の部品が故障または劣化したりすることがあります。このような状態のまま使用すると、ショートや絶縁不良などにより火災・感電につながることがあります。

モデムは、一般電話回線で使用する

会社、事務所などの内線電話回線（構内交換機）やデジタル公衆電話に接続したり、本機で対応していない国や地域[*4]で使用したりすると、火災・感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

本機の上に重いものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

必ず指定の AC アダプターを使用する

指定（付属および指定の別売り商品）以外の AC アダプターを使用すると、火災の原因になることがあります。

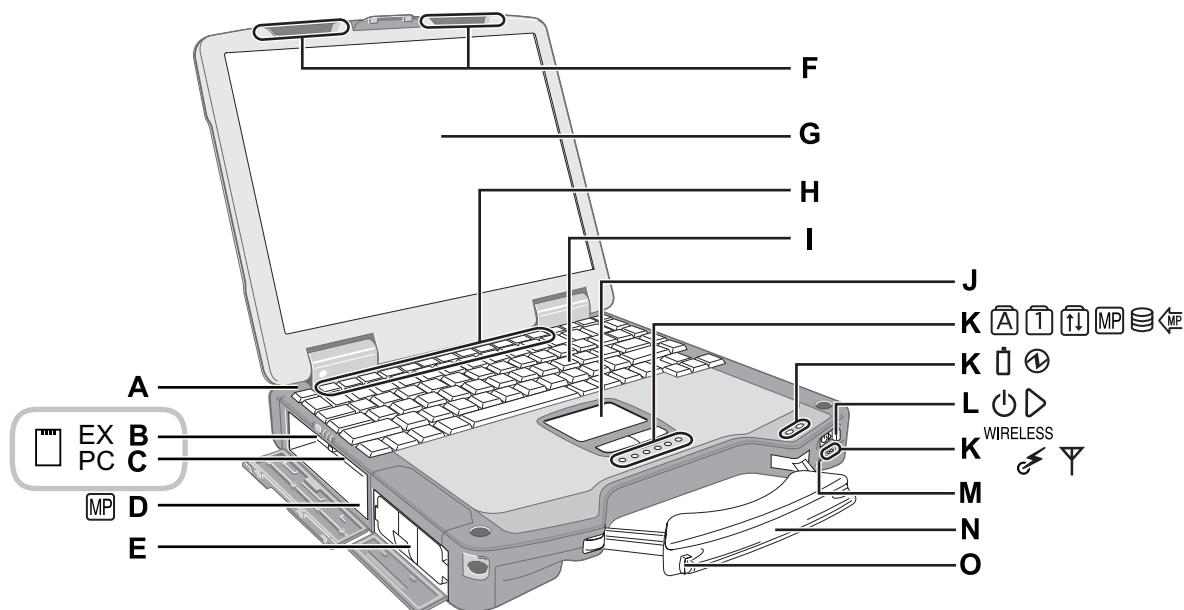
AC アダプターに強い衝撃を加えない

禁止

落とすなどして強い衝撃が加わった AC アダプターをそのまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になることがあります。

- AC アダプターの修理は、販売店にご相談ください。

[*4] 本機のモデムが対応している国や地域についてはパナソニック PC のホームページをご覧ください。

各部の名称と働き

A: Bluetooth アンテナ
<Bluetooth 内蔵モデルのみ >
➔『操作マニュアル』「Bluetooth 機能」

B: エクスプレスカードスロット
➔『操作マニュアル』「PC カード／エクスプレスカード」

C: PC カードスロット
➔『操作マニュアル』「PC カード／エクスプレスカード」

D: マルチメディアポケット
➔『操作マニュアル』「マルチメディアポケット」

E: バッテリーパック

F: 無線 LAN アンテナ
< 無線 LAN 内蔵モデルのみ >
➔『操作マニュアル』「無線 LAN 機能」

G: LCD
< タッチパネル内蔵モデルのみ >
➔『操作マニュアル』「タッチパネル」

H: ファンクションキー
➔『操作マニュアル』「キーの組み合わせによる操作」

I: キーボード

J: フラットパッド

K: 状態表示ランプ
- : Caps Lock ランプ（キャップスロック）
- : NumLk ランプ（テンキーモード）
- : ScrLk ランプ（スクロールロック）
- : マルチメディアポケット状態表示ランプ
  ➔『操作マニュアル』「マルチメディアポケット」「バッテリーパック」
- : ハードディスク状態表示ランプ
- : マルチメディアポケットの電源表示ランプ
- : バッテリー状態表示ランプ
  ➔『操作マニュアル』「バッテリーパック」
- : 電源状態表示ランプ
  （消灯：電源オフまたは休止状態、緑点灯：電源オン、緑点滅：スタンバイ状態）
- WIRELESS : ＜無線 LAN ／ Bluetooth 内蔵モデルのみ＞
  無線 LAN ／ Bluetooth 状態表示ランプ
  無線 LAN ／ Bluetooth が使用できる状態のとき点灯します。
  無線 LAN ／ Bluetooth のオン／オフ状態を示すものではありません。
  ➔『操作マニュアル』「無線通信をオン／オフする」
- : 将来の拡張用です。

L: 電源スイッチ

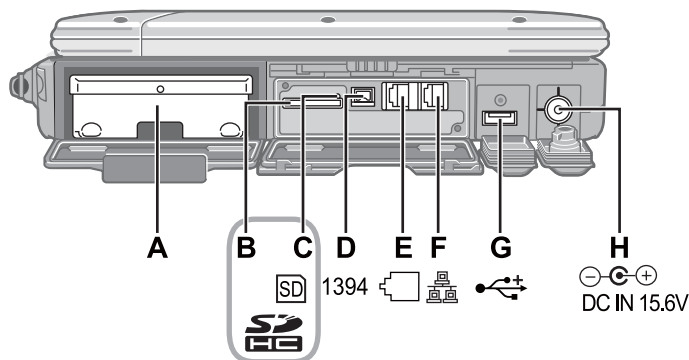
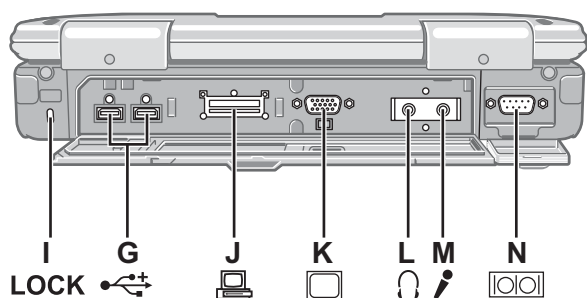
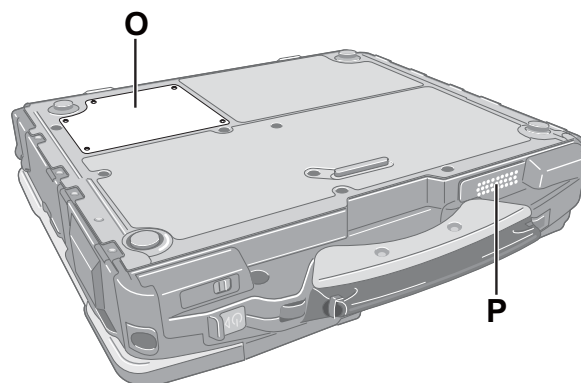
M: < 無線 LAN ／ Bluetooth 内蔵モデルのみ >
無線スイッチ [*1]
➔『操作マニュアル』「無線通信をオン／オフする」

N: ハンドル

O: スタイラスペンホルダー

[*1] **＜無線 LAN ／ Bluetooth を内蔵しないモデルの場合＞**
セットアップユーティリティの「詳細」メニューで「無線スイッチ」を「無効」に設定したり（工場出荷時は「有効」）、無線スイッチを入にすると、無線 LAN ／ Bluetooth 状態表示ランプが点灯しますが、無線機能は使えません。（「無線スイッチ」は「有効」の設定のままでお使いください。）

各部の名称と働き

右側

後側

底面

A: ハードディスクドライブ

➔ 『操作マニュアル』「ハードディスクドライブ」

B: SD メモリーカードスロット

➔ 『操作マニュアル』「SD メモリーカード」

C: SD メモリーカード状態表示ランプ

（点滅： アクセス中）

➔ 『操作マニュアル』「SD メモリーカード」

D: IEEE 1394 インターフェースコネクター

➔ 『操作マニュアル』「IEEE 1394 機器」

E: モデムコネクター

➔ 『操作マニュアル』「モデム」

F: LAN コネクター

➔ 『操作マニュアル』「LAN 機能」

G: USB ポート

➔ 『操作マニュアル』「USB 機器」

H: 電源端子

I: セキュリティロック

Kensington 社製のセキュリティ用ケーブルを接続することができます。
詳しくは、ケーブルに付属の取扱説明書をご覧ください。

J: 拡張バスコネクター

将来の拡張用です。

K: 外部ディスプレイコネクター

➔ 『操作マニュアル』「外部ディスプレイ」

L: オーディオ出力端子

市販のヘッドホン、アンプ付きスピーカーなどを接続することができます。 接続すると、内蔵スピーカーからの音は出なくなります。

M: マイク入力端子

コンデンサー型マイクロホンを使用できます。それ以外のものを使用すると、音声が入力されなかったり、誤動作の原因になったりする場合があります。

- ステレオマイクを使ってステレオ録音をするとき：
  [スタート] - [すべてのプログラム] - [SoundMAX] - [コントロールパネル] をクリックし、[マイク] を選びます。続いて、[マイクの詳細設定] の [フィルタリングなし] にチェックマークを付けてください。
- 2 極プラグタイプのモノラルマイクロホンを使用するとき：
  [スタート] – [すべてのプログラム] - [SoundMAX] - [コントロールパネル] をクリックし、[マイク] を選びます。続いて、[マイクの詳細設定] の [音声録音] にチェックマークを付けてください。
  [音声録音] にチェックマークを付けないと、左音声だけが録音されます。

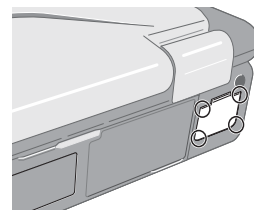
N: シリアルコネクター

O: RAM モジュールスロット

➔ 『操作マニュアル』「RAM モジュール」

P: スピーカー

➔ 『操作マニュアル』「キーの組み合わせによる操作」

防水機能を維持するため、コネクターカバーはきちんと閉めてください。
カバーの 4 つの角を押して、きちんと閉まっていることを確認してください。
（右の図は一例です。）

スタイラスペンをパソコンに取り付ける（タッチパネル内蔵モデルのみ）

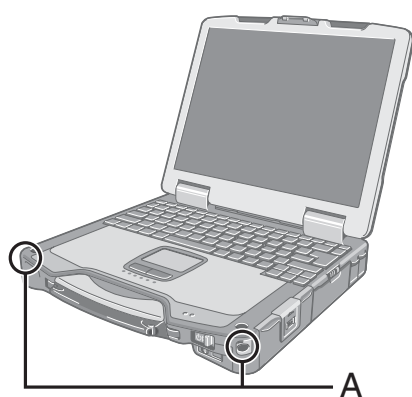
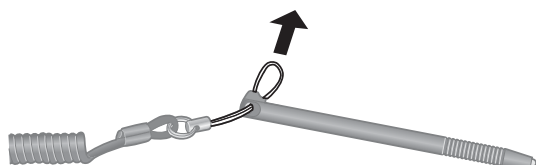
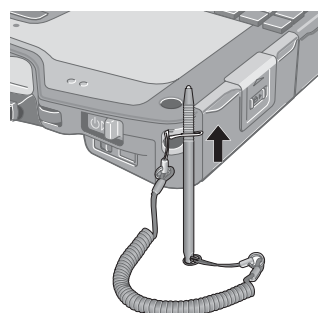
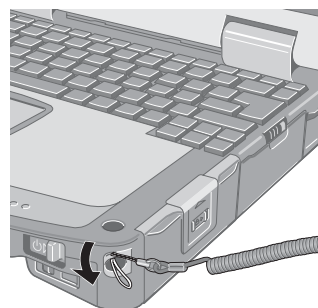
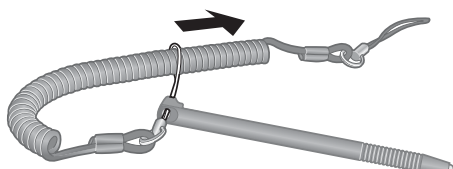
スタイラスペンはなくさないように、スタイラスペン用ケーブルで左右どちらかの取り付け穴（A）に取り付けてください。

1

2

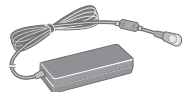
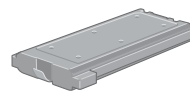
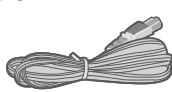
3

4

お使いになる前に

はじめて使うとき

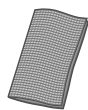
■ 準備

① 付属品を確認する。
万一足りない場合、または購入したものと異なる場合は、ご相談窓口にお確かめください (➔34 ページ)。

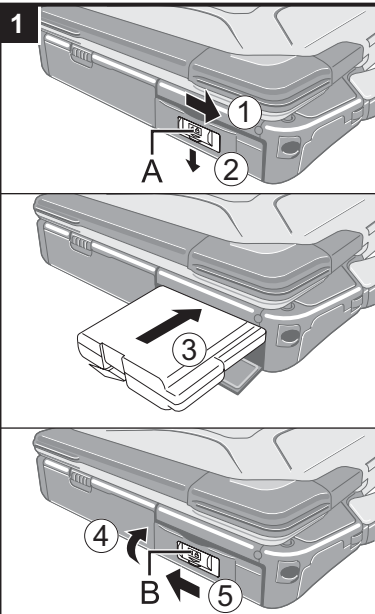
• AC アダプター . . . . .1 **• 電源コード . . . . .1** **• バッテリーパック . . .1** **• モジュラーケーブル . . 1**

品番 CF-AA1652A

品番 CF-VZSU46

• 取扱説明書（本書）[*1]
• Windows® ファーストステップガイド
• 保証書
• 3 年間無償保証のご案内

< タッチパネル内蔵モデルのみ >

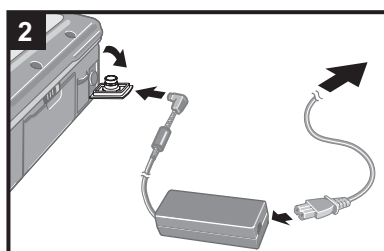
• 専用布 . . . . .1 **• スタイラスペン用ケーブル . . . . .1** **• スタイラスペン 1**

(➔ 『操作マニュアル』「タッチパネル」)

② パソコン本体の包装袋のシールをはがす前に、ソフトウェア使用許諾書の内容を確認する（➔30 ページ)。

[*1] 本書以外に説明書が付属されている場合は、その説明書も必ずお読みください。以下の手順を行う際に追加の操作が必要になる場合があります。

1　バッテリーパックを取り付ける。

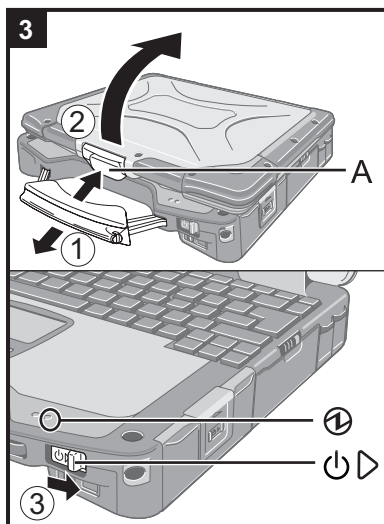
① ラッチ（A）を右側にスライドして、カバーのロックを外す。
② ラッチ（A）を押し下げて、カバーを開ける。
③ スロットの奥までしっかりとバッテリーパックを挿入する。
④ カチッと音がするまでカバーを閉じる。
⑤ ラッチ（B）を左にスライドして、カバーをロックする。

お願い

- ラッチが正しくロックされていることを確認してください。 ロックされていない状態でパソコンを持ち運ぶと、バッテリーパックが落ちるおそれがあります。
- バッテリーパックとパソコンのコネクター部には触れないでください。 コネクターが汚れたり損傷したりすると、接触が悪くなり、バッテリーやパソコンが正しく動作しないことがあります。

2　パソコンを電源に接続する。

自動的にバッテリーの充電が始まります。

お願い

- 手順 **6** が完了するまで、AC アダプターを取り外したり、無線スイッチを入にしたりしないでください。
- 初めて使うときは、バッテリーパックと AC アダプター以外の機器を接続しないでください。

3　パソコンの電源を入れる。

①ハンドルを手前に引く。
②ラッチ（A）を押したまま、ディスプレイを持ち上げて開ける。
③電源スイッチ⏻▷を約 1 秒間スライドしたままにし、電源状態表示ランプ ⓟ が点灯してから離す。

お願い

- 電源スイッチを連続して繰り返しオン／オフしないでください。
- 電源スイッチを 4 秒間以上スライドさせると、パソコンが強制終了します。
- 電源を切った後、再び電源を入れるまでは、10 秒以上お待ちください。
- ハードディスク状態表示ランプ が消灯するまで、次の操作は行わないでください。
  - AC アダプターの接続や取り外し
  - 電源スイッチに触れる
  - キーボード、フラットパッド、タッチパネル（タッチパネル内蔵モデルのみ）に触れる
  - ディスプレイを閉じる
- CPU の温度が高いときは、過熱を防ぐためパソコンが起動しないことがあります。温度が下がるまで待ってから電源を入れてください。温度が下がっても起動しない場合は、ご相談窓口にご相談ください (➔34 ページ)。

4　Windows をセットアップする。

①画面の指示に従って操作を行う。

お願い

- 日付／時間／タイムゾーンを設定し、[次へ] をクリックした後、次の手順の画面が表示されるまで数分間かかることがあります。キーボードやフラットパッドに触れずにそのままお待ちください。
- 「予期せぬエラーが起きました」（または同様のメッセージ）が表示されたら、[OK] をクリックしてください。故障ではありません。
- ハードディスク状態表示ランプ が消灯するまでお待ちください。
- 本機では、ハードディスクドライブの管理情報（通電時間、通電回数、内部温度、交替セクター数等）がハードディスク内に定期的に記録されます。記録されるデータ量は、1 回あたり最大 750 バイトです。これらの情報は、万が一ハードディスクが故障したときの原因を推定するためにのみ使用するもので、本情報をネットワーク経由で外部に発信したり、目的以外に使用したりすることはありません。この機能を無効にするには、PC 情報ビューアーの [ハードディスク使用状況] の [管理情報の履歴を自動的に記録する機能を無効にする] のチェックボックスにチェックマークを付けて [OK] をクリックしてください。

5　新しいユーザーアカウントを作成する。

①[スタート] - [コントロールパネル] - [ユーザーアカウント] - [新しいアカウントを作成する] をクリックする。

お願い

- パスワードを忘れないでください。 パスワードを忘れると、Windows にログオンできなくなります。 あらかじめパスワードリセットディスクを作成しておくことをお勧めします。

6 < タッチパネル内蔵モデルのみ >
タッチパネルの補正（キャリブレーション）を実行する。

①[スタート] - [すべてのプログラム] - [Fujitsu Touch Panel (USB)] - [補正ツール] をクリックする。
②画面の 12 か所に順番に“+”が表示されるので、スタイラスペンを使って点滅するまで 1 つずつ触れる。
③ **Enter** を押す。
④ **Enter** を押す。

お知らせ

- **Windows XP について**
  コントロールパネルのクラシック表示やクラシックスタートメニューを選択することができます。 また、ユーザーのログオン／ログオフのしかたを変更することもできます。 本書では、クラシック表示やクラシックスタートメニューではなく、Windows XP の初期設定を用いて説明しています。
- **Windows Update について**
  Windows セキュリティセンターで [自動更新] を有効に設定している場合は、セキュリティの更新など、重要な更新が自動的にインストールされます。手動で更新を行う場合（重要な更新以外の更新を行う場合など）は、以下の手順で行ってください。
  ①コンピューターの管理者の権限でログオンする。
  ②[スタート]-[すべてのプログラム]-[Windows Update] をクリックする。
  ③画面の指示に従って更新プログラムをインストールする。
  - デバイスドライバーの更新プログラム（「カスタムインストール」の「ハードウェア用の更新プログラムを追加で選択」に表示される項目）は適用しないでください。お使いのパソコンと互換性がない場合があります。詳しくは、弊社の Web ページ（http://askpc.panasonic.co.jp/security/index.html）をご覧ください。
  - 再インストールした後も必ず [Windows Update] を行ってください。インストールした更新プログラムの種類により、さらに更新プログラムが提供されている場合があります。プログラムの更新後に再度 Windows Update を実行してください。
- **「コンピューターが危険にさらされている可能性があります。」というメッセージが表示されたら**
  タスクバーの をクリックし、必要な設定をしてください。Windows セキュリティセンターは、パソコンを快適な状態でお使いいただくため定期的に通知を行いますが、エラーメッセージではありませんので、そのままパソコンをお使いいただけます。ただし、ウイルスなどの危険にさらされないよう、適切な対策を行うことをお勧めします。
- **電源の消費を抑えるために、工場出荷時には次のように設定されています。**
  - 何の操作もせずに 15 分が経過すると LCD の画面は自動的にオフになる
  - 何の操作もせずに 20 分が経過するとパソコンは自動的にスタンバイ状態 [*1] になる。

  [*1] スタンバイ状態からのリジュームについて ➔ 『操作マニュアル』「スタンバイ・休止状態機能」
- **AC アダプターを接続している状態での消費電力は次のとおりです。**

LCD の画面がオフのとき	約 12.5 W
スタンバイ状態のとき	約 2.3 W
バッテリーが満充電（またはバッテリーが充電状態ではない）で、パソコンの電源が切れているとき	約 0.9 W

- **電源が切れている状態でも電力を消費します。満充電のバッテリーの残量がなくなるまでの期間は次のとおりです。**
  パソコンの電源が切れている状態で：約 7 週間
  スタンバイ状態で：約 3 日 [*2]
  休止状態で：約 4 日 [*2]
  [*2] Wake Up from wired LAN 機能が無効のときは、残量がなくなるまでの時間が少し長くなります。

お使いになる前に

画面で見るマニュアル

パソコンの画面上で、『操作マニュアル』および『バッテリー等の上手な使い方』を見ることができます。
『操作マニュアル』および『バッテリー等の上手な使い方』を初めて起動したときは、Adobe Reader の「使用許諾契約書」画面が表示されます。 内容をよく読み、[同意する] をクリックして先に進んでください。

■ 操作マニュアル

『操作マニュアル』は、本機を十分に活用していただくための機能について説明しています。

『操作マニュアル』を見るには

① [スタート] - [操作マニュアル] をクリックする。

もくじ

■ バッテリー等の上手な使い方

『バッテリー等の上手な使い方』では、バッテリーやタッチパネルの使い方について役立つ情報を記載しています。 より長時間／長寿命でバッテリーパックをお使いいただく方法なども説明しています。

『バッテリー等の上手な使い方』を見るには

① デスクトップの バッテリー等の上手な使い方 をダブルクリックする。

- または、[スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [バッテリー] - [バッテリー等の上手な使い方] をクリックする。

お知らせ

- Adobe Reader のアップデートのお知らせ画面が表示されたら、画面の指示に従って最新バージョンにアップデートすることをお勧めします。
  Adobe Reader の最新バージョンについては、下記ホームページにアクセスしてください。
  http://www.adobe.com/jp/

取り扱いとお手入れ

操作環境について

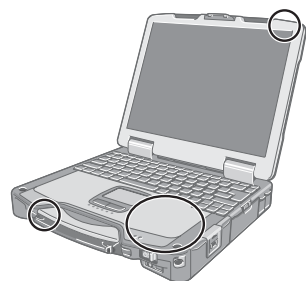
- パソコンは平らで落下のおそれのないところに置いてください。また、立てて置いたりしないでください。倒れて本体に強い衝撃が加わると、誤動作や故障の原因になります。
- 適切な温度範囲： 操作時： 5 ℃ ～ 35 ℃
保管時：- 20 ℃ ～ 60 ℃
適切な湿度範囲： 操作時： 30% RH ～ 80% RH（結露なきこと）
保管時： 30% RH ～ 90% RH（結露なきこと）
上記の温度 ／ 湿度の範囲であっても、極端な環境で長時間ご使用になると、パソコンの劣化につながり、製品寿命が短くなる可能性があります。
- パソコンが損傷するおそれがあるため、次の場所には置かないでください。
  - 電気製品の近く。画像が乱れたり、雑音が起きたりすることがあります。
  - 極端に高温または低温のところ。
- 操作中は、パソコンの温度が上昇しますので、熱に弱いものを近くに置かないでください。

取り扱い上のご注意

本機は、ディスプレイやハードディスクへの衝撃が小さく抑えられるよう設計されていますが、衝撃による故障は保証しかねます。 取り扱いには十分注意してください。

- パソコンを持ち運ぶとき
  - パソコンの電源を切ってください。
  - 外部装置、ケーブル、カード、その他本体から突き出るものをすべて外してください。
  - 落としたり、硬いものにぶつけたりしないでください。
  - ディスプレイを開けたままにしないでください。
  - ディスプレイ部分を持って運ばないでください。
- ディスプレイとキーボードの間に紙きれなどのものをはさまないでください。
- 航空機には手荷物として持ち込んでください。 航空機内での使用については、航空会社の指示に従ってください。
- 予備のバッテリーパックを持ち運ぶときは、コネクター保護のためビニール袋などに入れてください。
- フラットパッドは、指で操作するよう設計されています。 フラットパッドの上に物を置いたり、跡が付くような先のとがったものや硬いもの（爪、鉛筆、ボールペンなど）で強く押したりしないでください。
- 油などをフラットパッドに付着させないでください。 カーソルが正しく動かなくなることがあります。
- 本機には、右のイラストの○で囲んだ部分に、磁石および磁気を帯びた部品が使用されています。 これらの部分に、金属や磁気メディアを接触させないようにしてください。

< タッチパネル内蔵モデルのみ >

- 付属のスタイラスペン以外でタッチパネルに触れないでください。 タッチパネルの上に物を置いたり、跡が付くような先のとがったものや硬いもの（爪、鉛筆、ボールペンなど）で強く押したりしないでください。
- 画面にほこりや油などの汚れが付着したときは、スタイラスペンを使わないでください。画面やスタイラスペンに異物が付着していると、画面に傷を付けたり、スタイラスペンの操作ができなくなったりすることがあります。
- スタイラスペンは、画面操作以外の用途に使わないでください。 別の用途に使うと、スタイラスペンが損傷したり、画面に傷を付けたりすることがあります。

■ 周辺機器を使用する場合

周辺機器の損傷を防ぐため、下記および『操作マニュアル』の記載事項をお守りください。また、周辺機器の取扱説明書をよくお読みください。

- パソコンの仕様に合った周辺機器を使用してください。
- コネクターの形状、向きに注意して正しく接続してください。
- 接続しにくい場合は、無理に押し込まず、コネクターの形状、向き、ピンの並び方などを確認してください。
- ネジで固定する場合は、しっかり締めてください。
- パソコンを持ち運ぶときは、ケーブルを外してください。ケーブルは無理に引っ張らないでください。

お手入れ

ディスプレイのお手入れ
< タッチパネル内蔵モデルのみ >
付属の専用布をお使いください。（詳しくは、専用布に付属の『LCD 画面清掃についてのお願い』をご覧ください。）

< タッチパネル内蔵モデル以外 >
ガーゼなどの柔らかく乾いた布でふいてください。

< ディスプレイ以外のお手入れ >
ガーゼなどの柔らかく乾いた布でふいてください。 洗剤を使うときは、水で薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸し、固く絞ってください。

お願い

- ベンジンやシンナー、消毒用アルコールなどは使わないでください。塗装がはげるなど、塗装面に影響を与える場合があります。また、市販のクリーナーや化粧品の中にも、塗装面に影響を与える成分が含まれている場合があります。
- 水や洗剤を直接かけたり、スプレーで噴きかけたりしないでください。液体がパソコンの内部に入ると、誤動作や故障の原因になります。

無線 LAN ご使用時のセキュリティについて

< 無線 LAN 内蔵モデルのみ >
工場出荷時、無線 LAN のセキュリティに関する設定は行われていません。
無線 LAN をご使用になる前に、必ず無線 LAN のセキュリティに関する設定を行ってください。（➔ 『操作マニュアル』「無線 LAN 機能」、お使いの無線 LAN アクセスポイントの説明書）
無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに電波を利用してパソコンと無線 LAN アクセスポイント（別売り）との間で情報のやりとりを行います。このため、電波の届く範囲であればネットワーク接続が可能であるという利点があります。
その反面、ある範囲であれば障害物（壁等）を越えて電波が届くため、セキュリティに関する設定を行っていないと、次のような問題が発生する可能性があります。

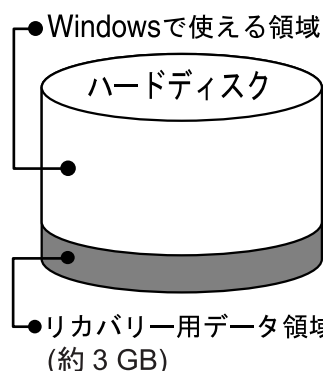
- 通信内容を盗み見られる
  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、次のような通信内容を盗み見る可能性があります。
  - ID やパスワード
  - クレジットカード番号等の個人情報
  - メール内容
- 不正に侵入される
  悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のパソコンやネットワークへアクセスし、次のようなことを行う可能性があります。
  - 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
  - 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
  - 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
  - コンピューターウイルスなどを流し、データやシステムを破壊する（破壊）

本機の無線 LAN 機能や無線 LAN アクセスポイントには、これらの問題に対応するためのセキュリティに関する設定が用意されています。本機では、使用する無線 LAN アクセスポイントにあわせて設定をする必要があるため、お買い上げ時にはセキュリティに関する設定は行われていません。無線 LAN をご使用になる前に、必ず無線 LAN のセキュリティに関する設定を行ってください。
無線 LAN のセキュリティに関する設定を行って使用することで、問題が発生する可能性は少なくなりますが、無線 LAN の仕様上、特殊な方法で通信内容を盗み見られたり、不正に侵入されたりする場合があります。ご理解のうえ、ご使用ください。
セキュリティに関する設定を行わないで使用した場合の問題を十分に理解したうえで、お客さまご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行うことをお勧めします。お客さまご自身で対処できない場合は、お客様ご相談センターにご相談ください。

セットアップユーティリティの設定について

- 「セキュリティ」メニューの「Computrace (R) 設定サブメニュー」の設定は変更することはできません。

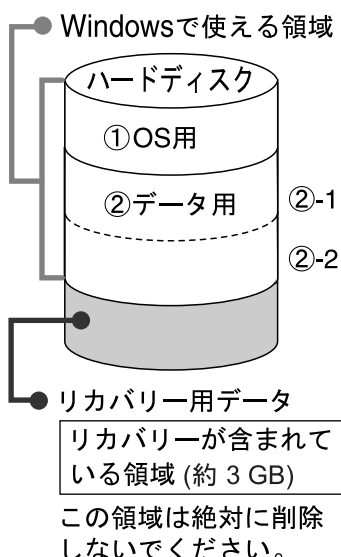
ハードディスクについて

■ ハードディスク内のリカバリー用データについて

- ハードディスク内のリカバリー用データは絶対に削除しないでください。
  本機は、再インストール（パソコンに何らかのトラブルが発生し正常に動作しなくなった場合などに行います）(➔21 ページ)に必要なリカバリー用データをハードディスク内に格納しています。このリカバリー用データは約 3 GB あります。
  誤って消去することを防ぐため、リカバリー用データ領域は通常の方法では表示されないようになっていますが、特殊な方法を使ってこの領域を削除したり、領域内のデータを削除／変更またはデータを追加したりすると再インストールができなくなります。絶対にこれらの操作を行わないでください。万一削除してしまった場合などは、ご相談窓口にご相談ください。(➔34 ページ)
- リカバリー用データは、他のメディアや外付けのハードディスクなどにバックアップを取ることはできません。
- リカバリー用データ領域を通常のドライブとして使用することはできません。
- ハードディスクリカバリーはダイナミックディスク（ディスク管理方式の一種）には対応しておりません。ダイナミックディスクへの変換は行わないでください。

■ ハードディスクのパーティション（領域）を変更する場合

(図は一例です)
Windowsで使える領域
ハードディスク
①OS用
②データ用
②-1
②-2
リカバリー用データ

リカバリーが含まれている領域 (約 3 GB)

この領域は絶対に削除しないでください。

- 再インストール時（➔21 ページ）「OS 用とデータ用の 2 つのパーティションを作成して、OS 用パーティションに Windows を再インストールする」を実行すると、パーティションを 2 つに分割することができます。
  OS 用として最低限必要なパーティションのサイズは、再インストール時に画面上でご確認ください。
- パーティションは OS 用も含め、3 つまでにしてください。
  - Recover Pro（➔18 ページ）をインストールすると、パーティションが 1 つ作成されます。Recover Pro をインストールする場合は、データ用パーティションを分割しないでください。
  - データ用のパーティションを分割する場合は、Windows の再インストールで OS 用とデータ用の 2 つのパーティションを作成した後、Windows を起動し、「ディスクの管理」を使って 2 つ目のパーティション（② データ用）を削除してから作成してください。
- データ用パーティション作成後に Windows を再インストールするときは、以下の点に気を付けてください。
  - 最初のパーティション（①OS 用）に Windows を再インストールする場合
    左図の ②-1 と ②-2 のデータは維持されます。
    ただし、「② データ用」を分割して、OS 用・Recover Pro 用を含めパーティションが 4 つ存在する場合、リカバリー用データ領域として扱われるため 4 番目のパーティションが削除されます。
    ※ Recover Pro をインストールしている場合は、最初のパーティションに Windows を再インストールしないでください。Recover Pro が正常に機能しなくなります。(➔21 ページ)
  - 上記以外の方法で再インストールする場合
    左図の ① および ② のデータはすべて削除されます。

パソコンの廃棄・譲渡時におけるハードディスク内のデータ消去について

データ流出のトラブルを回避するためにはハードディスク内に記録されたすべてのデータを、お客さまの責任において消去することが非常に重要です。

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンの中にあるハードディスクという記憶装置に、お客さまの重要なデータが記録されています。したがって、そのパソコンを廃棄または譲渡するときには、これらの重要なデータを消去することが必要です。ところが、このハードディスク内に記録されたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般には次のような操作を行います。

- 「削除」操作を行う
- データを「ごみ箱」に捨てる
- 「ごみ箱を空にする」機能を使ってデータを消す
- ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- 再インストールをして、工場出荷状態に戻す

しかし、これらの操作を行っても、ハードディスク内に記録されたファイルの管理情報が変更されてデータを呼び出す処理ができなくなるだけで、本来のデータは残っているという状態にあります。
したがいまして、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人によって、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（ともに有償）を利用するか、ハードディスク内のデータを金槌や強い磁気によって物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。（➔20 ページ）

ハードディスク内にお客さまがインストールした市販のソフトウェアを削除せずに本機を譲渡すると、そのソフトウェアのライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますので、ご注意ください。

ハードディスクバックアップ機能（Recover Pro）

Recover Pro を使うと、ハードディスクにバックアップ領域（保存領域）を作成して、ハードディスクのデータをバックアップ（保存）することができます。また、誤操作やその他の要因によりデータが失われたり壊れたりした場合に、バックアップされたデータを元の場所に復元します。バックアップや復元に、外部メディアや周辺機器は必要ありません。
お買い上げ時には Recover Pro はインストールされていません。本書の説明に従ってインストールしてください。

> Recover Pro は、データのバックアップ時または復元時にハードディスクに問題があると、正常にバックアップや復元をすることができません。また、予期せぬ誤動作／誤操作などにより、データの復元中にエラーが生じた場合、ハードディスク内のお客さまのデータ（復元前のデータ）が失われる場合がありますのでご注意ください。
> 本機能の使用により生じたお客さまの損害（データの消失を含む）については補償いたしかねます。

バックアップには次の 3 つのタイプがあります。
- クイックバックアップ：更新したデータのバックアップを一定の間隔で行います。
- ファイルバックアップ：ファイルの保存・変更時にファイルをバックアップします。
- 完全バックアップ：内蔵ハードディスクのすべてのデータをバックアップします。

ここでは、インストール手順、完全バックアップ（Windows が起動しなくなった場合に備えてハードディスクの内容をバックアップする機能）、完全復元（完全バックアップ時点の状態にハードディスクのデータを復元する機能）について説明します。詳しくはソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。（➔19 ページ）

お願い

- Recover Pro をインストールすると、パーティションが 1 つ作成されます。OS 用･Recover Pro 用を含め、パーティションは 3 つまでにしてください。（➔16 ページ）
- AC アダプターを接続して操作を行ってください。操作が完了するまで電源を切らないでください。インストール、バックアップ、または復元操作の途中で電源が切れると、これらの操作が正しく行われず、Windows を起動できなくなるおそれがあります。また、操作中は操作に関係のないキーやスイッチに触れないでください。
- パソコンが再起動し、「C: のファイルシステムをチェックしてください。」というメッセージが表示された場合は、画面の指示に従ってください。 チェックは省略しないで行ってください。
- インストール中に選択するインストール方法は、ハードディスクに十分なスペースがあることを確認してから選択してください。後で変更する場合は Recover Pro を再インストールする必要があります。
  以下の場合は、完全バックアップを確実に実行するため、「すべて」（標準インストール）を選ぶことをお勧めします。
  - ハードディスクにパーティションが 1 つしかないとき
  - ソフトウェアの再インストール（➔21 ページ）直後（ハードディスク全体の半分以上の空き領域があるとき）
- バックアップデータは、必ず内蔵ハードディスクに作成してください。内蔵ハードディスク以外のディスクやドライブは使わないでください。
- ソフトウェア（セキュリティソフト、バックアップソフト、暗号化ソフト、ハードディスクにアクセスできるソフトなど）の中には、Recover Pro と相性のよくないものがあります。
  詳しくは下記ホームページ（英語のみ）をご覧ください。
  http://www.phoenix.com/en/Customer+Services/White+Papers-Specs/Recover+Pro/default.htm
- Personal Secure Drive（詳しくは 『内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き』をご覧ください）を使っている場合、Personal Secure Drive のファイルバックアップを行わないでください。
- Recover Pro の「リカバリー CD-DVD の作成」機能は、完全バックアップデータを CD や DVD に保存するときに便利な機能です。この機能を使うと完全バックアップデータを見ることができますが、誤ってデータを削除しないよう気をつけてください。
- Recover Pro のインストール後は、IEEE1394 経由でネットワークに接続しないでください。 問題が起こった場合は、IEEE1394 経由のネットワーク接続を中断し、パソコンを再起動してください。

インストール

準備

- すべての周辺機器を取り外す。
- AC アダプターを接続する。操作が完了するまで取り外さないでください。

1 コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。

2 すべてのアプリケーションソフトを終了する。

3 アンチウイルスソフトウェアを無効にする。

4 [スタート]–[ファイル名を指定して実行] をクリックし、[c:¥util¥rcvpro¥setup.exe] と入力して、[OK] をクリックする。

インストール画面が表示されます。

5 [次へ] をクリックする。

画面の指示に従って操作してください。
「使用許諾契約書」をよくお読みになり、[使用許諾契約書に同意します。] にチェックマークを付け、[はい] をクリックしてください。
- インストールが完了するまでに、パソコンが数回再起動します。インストールが完了すると、画面右下のタスクトレイに が表示されます。

お願い

- インストール中は、画面が一瞬暗くなることがありますが、故障ではありません。
- インストール方法を「すべて」（標準インストール）にすると、ハードディスクの最大 40%がバックアップ領域として割り当てられます。
- バックアップ領域は、作成後にサイズを変更することはできません。

完全バックアップ

内蔵ハードディスクのすべてのデータをバックアップします。

準備

- すべての周辺機器を取り外す。
- AC アダプターを接続する。操作が完了するまで取り外さないでください。

1 コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。

2 すべてのアプリケーションソフトを終了する。

3 [スタート]–[すべてのプログラム]–[Phoenix Applications]–[Phoenix Recover Pro 6] をクリックする。

Recover Pro 6 の画面が表示されます。

4 [完全バックアップ] をクリックし、[はい] をクリックする。

パソコンが再起動し、Recover Pro 6 の画面が表示されます。
画面の指示に従って操作してください。

お知らせ

- バックアップ領域には、完全バックアップ 1 回分のデータのみ保存できます。
- Recover Pro 操作時は電源スイッチに触れないでください。

完全復元

完全バックアップで作成されたデータをハードディスクに復元します。前回の完全バックアップ以降に保存したファイルや設定変更の情報は削除されます。

準備

- すべての周辺機器を取り外す。
- AC アダプターを接続する。操作が完了するまで取り外さないでください。

1 [スタート]–[すべてのプログラム]–[Phoenix Applications]–[Phoenix Always Launcher]–[実行] をクリックする。

- または、パソコンの電源を入れるか再起動し、[Panasonic] 起動画面が表示されている間に F4 を数回押して、Phoenix Always の画面が表示されるまでお待ちください。

パソコンが再起動し、Phoenix Always の画面が表示されます。

2 [保護／リカバリー] をクリックし、[Phoenix Recover Pro 6] をクリックする。

Recover Pro 6 の画面が表示されます。

3 [完全復元] をクリックする。

画面の指示に従って操作してください。

お知らせ

- Recover Pro 操作時は電源スイッチに触れないでください。

■ **マニュアルを見るには**

① [スタート]–[すべてのプログラム]–[Phoenix Applications]–[Docs] をクリックし、[UserGuides] をダブルクリックする。
② Recover Pro ユーザーガイド、または Phoenix Always ユーザーガイドのファイルをダブルクリックする。

ハードディスクの内容をすべて消去する

パソコンを廃棄または譲渡する場合には、データが流出しないよう、ハードディスクのデータをすべて消去してください。 通常の Windows メニューでデータの消去やハードディスクの初期化を行った場合でも、特殊なソフトウェアを使うと、消去されたデータが読み出される可能性があります。 ハードディスクデータ消去ユーティリティを使って、データをすべて消去してください。
市販のソフトウェアをアンインストールせずに譲渡すると、ソフトウェア使用許諾契約に違反するおそれがありますのでご注意ください。

ハードディスクデータ消去ユーティリティでは、データを上書きする方法を用いていますが、誤動作や誤操作が起こると、データが完全に消去されない場合があります。 また、特殊な機器により読み出される可能性があります。 非常に機密性の高いデータを消去する必要がある場合には、専門業者に依頼することをお勧めします。 また、このユーティリティの使用により生じた損失や損害については補償いたしかねます。

お願い

- 内蔵ハードディスクにのみ有効です。外付けのハードディスクには働きません。
- 実行すると、ハードディスクからは起動しなくなります。
- 損傷したハードディスクのデータは消去できません。
- ハードディスクに Recover Pro のバックアップデータがある場合、Recover Pro のバックアップデータも消去されます。

お知らせ

- パーティションを指定してデータを消去することはできません。

準備

- すべての周辺機器を取り外す。
- AC アダプターを接続する。操作が完了するまで取り外さないでください。

1 パソコンの電源を入れて、[Panasonic] 起動画面が表示されている間に、F2 を数回押す。
セットアップユーティリティが起動します。
- パスワード入力画面が表示されたら、スーパーバイザーパスワードを入力してください。

2 「終了」メニューで「ハードディスクリカバリー／消去」を選び、 Enterを押す。
確認メッセージが表示されたら「はい」を選び、Enter を押してください。
- 以下の場合は、ご相談窓口にご相談ください。（➔34 ページ）
  - [ハードディスクリカバリー／消去] が表示されない。
  - 再インストール（またはリカバリー）用ファイルに不整合がありますというメッセージが表示される。
    ハードディスク内のリカバリー用データ領域が削除されていたり、再インストールに必要なファイルが壊れていたりする可能性があります。
- パーティションテーブルの第 4 エントリーにパーティションがあることを示す赤いメッセージが表示された場合
  - すでに該当パーティションのデータをバックアップ済みの場合
    [はい] を選んでください。該当パーティションは消去されます。
  - まだ該当パーティションのデータをバックアップしていない場合
    [いいえ] を選んでください。操作は中止され、セットアップユーティリティの画面に戻ります。ハードディスク以外の場所に、該当パーティションのデータをバックアップしてください。

3 「番号を選択してください。」というメッセージが表示されたら、2 を押して「2. [HDD 消去]」を実行する。
- 操作を中止する場合は、0（ゼロ）を押してください。

4 確認メッセージが表示されたら、Y を押す。
ハードディスクデータ消去ユーティリティが起動します。

5 「<<< スタートメニュー >>>」で Enterを押す。

6 消去にかかるおおよその時間など、メッセージの内容を確認してから Space を押す。

7 メッセージの内容を確認してから Enter を押す。
ハードディスクのデータ消去が始まります。
（Ctrl + Break で消去を中断することができますが、すでに消去されたデータは元に戻りません。）

8 「ハードディスクのデータは消去されました。」というメッセージが表示されたら、いずれかのキーを押してパソコンの電源を切る。
何らかの原因で完了できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。

再インストールする（ハードディスクリカバリー）

ソフトウェアを再インストールすると、パソコンは工場出荷時の状態に戻ります。 また、Recover Pro のバックアップデータを含めハードディスクのデータが消去されます。重要なデータは、再インストール前に、他のメディアまたは外部ハードディスクにバックアップを取っておいてください。

準備

- すべての周辺機器を取り外す。
- AC アダプターを接続する。操作が完了するまで取り外さないでください。

お願い

- ハードディスクのパーティション（領域）を変更されるお客さまへ
  - ハードディスク内には、再インストールに必要なリカバリー用データを格納している領域があります（➔16 ページ）。この領域は保護されているため、パーティション操作ツールなどを使った方法では表示も削除もできないようになっています。しかし、特殊な方法を使った場合は、この領域も削除されるおそれがあります。削除すると工場出荷時の状態に戻せなくなりますので、絶対に削除しないでください。
  - OS 用・Recover Pro 用も含め、パーティションは 3 つまでにしてください。（➔16 ページ）

お知らせ

- ハードディスクリカバリーはダイナミックディスク（ディスク管理方式の一種）には対応しておりません。ダイナミックディスクへの変換は行わないでください。
- パーティションテーブルの第 4 エントリーにパーティションを作成している状態で再インストールを実行すると、下記の手順 **2** の ③ で「3」（最初のパーティションに Windows を再インストールする）を選んだ場合でも、第 4 エントリーにあるパーティションのデータにはアクセスできなくなります。このパーティションのデータは、ハードディスク以外の場所（他のメディアや外付けのハードディスクなど）にバックアップしておいてください。（特殊な方法でパーティションを作成すると、Windows 上で見える 4 番目のパーティションと一致しない場合があります。）
- バックアップを取るときは、ドライブ名を確認してください。パーティションの順番やドライブ名は、パーティションの構成や周辺機器の接続、パーティションを作成したときの条件により異なります。
  確認方法の一例：[スタート] をクリックし、[マイコンピュータ] を右クリックして、[管理] - [ディスクの管理] をクリックする。
- Recover Pro（➔18 ページ）をインストールしている場合
  - 下記の手順 **2** の ③ で [1] または [2] を選択してください。[3] を選択すると、Recover Pro が正常に機能しなくなります。
  - Windows が起動せず Recover Pro による復元が正常に行えない場合で、最初のパーティションと Recover Pro のバックアップ領域以外にあるデータを取り出したいときのみ、下記の手順 **2** の ③ で [3] を選び、次の手順を行ってください。

  ① 再インストール後、外部メディア（リムーバブルディスクなど）にデータをバックアップする。
  ② 再インストールを再度実行し、下記の手順 **2** の ③ で [1] または [2] を選択する。
  ③ バックアップデータを 内蔵ハードディスクに戻す。

1　セットアップユーティリティを工場出荷時の設定に戻す。

① パソコンの電源を入れて、[Panasonic] 起動画面が表示されている間に、**F2**を数回押す。
セットアップユーティリティが起動します。
●パスワード入力画面が表示されたら、スーパーバイザーパスワードを入力してください。

② セットアップユーティリティのすべての項目をメモし、**F9**を押す。
確認メッセージで「はい」を選び、**Enter**を押してください。

③「終了」メニューで「設定を保存する」を選び、**Enter**を押す。
確認メッセージで「はい」を選び、**Enter**を押してください。
●22 ページの手順 **3**「「はじめて使うとき」の操作を実行する。」の操作が完了するまでは、セットアップユーティリティの設定を変更しないでください。
●セットアップユーティリティが終了してパソコンが再起動してしまった場合、1 行目の「設定を保存して終了」を選んでいます。パソコンの電源を切り、手順 **1** からやり直してください。

④「ハードディスクリカバリー／消去」を選び、**Enter** を押す。
確認メッセージで [はい] を選び、**Enter**を押してください。

2　再インストールする。

① **1**を押して、[1. [リカバリー]] を実行する。
「使用許諾契約書」の画面が表示されます。

② **1**を押す。
●中止する場合は**2**を押してください。

上手にお使いいただくために

③ 設定を選択する。
- [2]: OS 用パーティションのサイズを入力し、Enterを押す。
  （データ用パーティションのサイズは、最大値から OS 用パーティションのサイズを引いて決定されます。）
  [3]: 最初のパーティションに Windows がインストールされます。
  （最初のパーティションのサイズは、20GB 以上必要です。サイズが小さいと再インストールできません。）

確認メッセージでYを押してください。
再インストールが自動的に始まります（約 10 分かかります）。
- パソコンの電源を切ったり、 Ctrl + Alt + Del を押したりして、再インストールを中止しないでください。 Windows が起動しなくなったり、データが消失して再インストールできなくなったりするおそれがあります。

④ 終了のメッセージが表示されたら、いずれかのキーを押してパソコンの電源を切る。
- 本書以外に説明書が付属されている場合は、その説明書も必ずお読みください。以下の手順を行う際に追加の操作が必要になる場合があります。

3 「はじめて使うとき」の操作 (➔10 ページ) を実行する。

4 セットアップユーティリティを起動し、必要に応じて設定を変える。

エラーコード／メッセージ

エラーコードやメッセージが表示された場合は、下記の対処の説明に従ってください。 それでも解決できない場合、または下記以外のエラーコードやメッセージが表示された場合は、ご相談窓口にご相談ください。(➔34 ページ)

エラーコード／メッセージ	対処
0211：キーボードエラーです。	● 外部キーボードや外部マウスを取り外してください。
0251：システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 デフォルト値が設定されました。	セットアップユーティリティの設定内容を保持しているメモリーの内容が正しくありません。 これは、プログラムなどの意図しない動作により、メモリーの内容が変更された場合に起こるエラーです。 ● セットアップユーティリティを起動し、デフォルト設定にした後、必要に応じて適切な値に設定し直してください。 ● それでも表示される場合は、データ保持用の内蔵クロックバッテリーの交換が必要になる可能性があります。ご相談窓口にご相談ください（➔34 ページ）。
0271：日付と時刻の設定を確認してください。	日付と時刻の設定が正しくありません。 ● セットアップユーティリティを起動し、日付と時刻を正しく設定してください。 ● それでも表示される場合は、データ保持用の内蔵クロックバッテリーを交換が必要になる可能性があります。ご相談窓口にご相談ください（➔34 ページ）。
0280：起動を 3 回失敗しました。 －デフォルト値を使用して起動します。	繰り返し起動に失敗したため、セットアップユーティリティをデフォルト設定に変更して起動しました。 ● セットアップユーティリティを起動し、デフォルト設定にした後、必要に応じて適切な値に設定し直してください。
<F2> キーを押すとセットアップを起動します。	● エラー内容をメモした後、 F2 を押してセットアップユーティリティを起動してください。 必要に応じて設定を変更してください。
0613 (0615)：シリアルポート[*1] の設定が変更されました。 0614 (0616)：シリアルポート[*1] の設定エラーです。シリアルポート[*1] は使用できません。 [*1] A や B などが表示され、競合しているポートを表します。	I/O アドレス、IRQ（割り込みレベル）の設定が競合しています。 ● セットアップユーティリティを起動し、「詳細」メニューで競合しないように設定を変更してください。
Operating System not found	起動しようとしたフロッピーディスクやハードディスクに OS が正しくインストールされていません。 ● フロッピーディスクを使用する場合は、起動できるフロッピーディスクに交換してください。 ● ハードディスクから起動できない場合は、セットアップユーティリティの「情報」メニューでハードディスクが正しく認識されているか確認してください。ハードディスクが認識されている場合は、再インストールを行ってください（➔21 ページ）。それでも問題が解決しない場合は、ご相談窓口にご相談ください（➔34 ページ）。 ● USB 機器を接続している場合は、機器を取り外すか、セットアップユーティリティの「詳細」メニューで「USB ポート」または「レガシー USB」を「無効」に設定してください。 ● エクスプレスカードスロットに機器を接続している場合は、機器を取り外すか、セットアップユーティリティの「詳細」メニューで「ExpressCard スロット」を「無効」に設定してください。
RAM モジュールエラーです。	RAM モジュールが正しく取り付けられていなかったり、指定以外の RAM モジュールが取り付けられていたりすると、パソコンの電源を入れたときにビープ音が鳴り、「RAM モジュールエラーです。」というメッセージが表示されます。 ● 電源スイッチを 4 秒間以上スライドしてパソコンの電源を切り、RAM モジュールの仕様が指定のものであることを確認し、正しく取り付け直してください。

■ セットアップユーティリティの起動方法

① パソコンを再起動する。
② [Panasonic] 起動画面が表示されている間に、F2 を数回押す。

困ったときの Q&A

トラブルが発生した場合は、下記の方法をお試しください。『操作マニュアル』でもさらに詳しい内容を紹介しています。ソフトウェアに関する問題については、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。それでも解決しない場合は、ご相談窓口にご相談ください（➔34 ページ）。
PC 情報ビューアーを使うと、パソコンの使用状態を確認することができます。（➔ 『操作マニュアル』「困ったときの Q&A（詳細編）」の「パソコンの使用状態を確認する」）。

■ 電源を入れたとき

起動できない。 電源状態表示ランプまたはバッテリー状態表示ランプが点灯しない。	● AC アダプターを接続してください。 ● 満充電されたバッテリーパックを取り付けてください。 ● バッテリーパックと AC アダプターをいったん取り外し、取り付け直してください。 ● USB 機器を接続している場合は、機器を取り外すか、セットアップユーティリティの「詳細」メニューで「USB ポート」または「レガシー USB」を「無効」に設定してください。 ● エクスプレスカード経由で機器を接続している場合は、機器を取り外すか、セットアップユーティリティの「詳細」メニューで「ExpressCard スロット」を「無効」に設定してください。
電源は入っているが、「Warming up the system (up to 32 minutes)」が表示される。	● 低温時にハードディスクの誤動作を防ぐために予熱を行っています。起動するまでお待ちください(最長 32 分)。ハードディスクが正常に動作する温度にならなかった場合は、「Cannot warm up the system」と表示され、パソコンが起動しません。その場合はパソコンの電源を切り、5℃～ 35℃の温度環境に約 1 時間置き、その後電源を入れてください。
パソコンが起動しない。 パソコンがスタンバイからリジュームしない。 （電源状態表示ランプが短い間隔で緑色点滅する。）	● パソコンの電源を切り、5℃～ 35℃の温度環境に約 1 時間置き、その後電源を入れてください。
パスワードを忘れた。	● スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードを忘れたとき：ご相談窓口にご相談ください。（➔34 ページ） ● コンピューターの管理者のパスワードを忘れたとき： • パスワードリセットディスクがある場合は、管理者パスワードをリセットできます。ディスクをセットし、適当なパスワードを入力してパスワード入力エラーの画面を表示させてください。その後、画面の指示に従って、新しいパスワードを設定してください。 • パスワードリセットディスクがない場合は、再インストールし (➔21 ページ)、Windows をセットアップして、新しいパスワードを設定してください。
「Remove disks or other media. Press any key to restart」または同様のメッセージが表示される。	● システムを起動できないフロッピーディスクがセットされています。フロッピーディスクを取り出し、いずれかのキーを押してください。 ● USB 機器を接続している場合は、USB 機器を取り外すか、セットアップユーティリティの「詳細」メニューで「USB ポート」または「レガシー USB」を「無効」に設定してください。 ● エクスプレスカード経由で機器を接続している場合は、機器を取り外すか、セットアップユーティリティの「詳細」メニューで「ExpressCard スロット」を「無効」に設定してください。 ● 上記を行っても解決しない場合は、ハードディスクに何らかの問題が発生していることが考えられます。ご相談窓口にご相談ください（➔34 ページ)。
Windows の起動および動作が遅い。	● セットアップユーティリティでF9を押して(➔23 ページ「セットアップユーティリティの起動方法」)、設定（パスワード設定を除く）を工場出荷時の設定に戻してください。再度セットアップユーティリティを起動し、各種設定をしてください。（動作速度は、使用するアプリケーションソフトに依存することもあり、この操作により必ず速くなるわけではありません。） ● お買い上げ後にインストールした常駐ソフトウェアがある場合は、そのソフトウェアの常駐を解除してください。 ● 下記の操作で、インデックスサービスを無効にしてください。 [スタート] - [検索] - [設定を変更する] - [インデックスサービスを使わない] をクリックする。
日付と時刻が正しくない。	● 下記の操作で正しい日付と時刻を設定してください。[スタート] - [コントロールパネル] - [日付、時刻、地域と言語のオプション] - [日付と時刻を変更する] をクリックする。 ● 解決しない場合は、データ保持用の内蔵クロックバッテリーの交換が必要になる可能性があります。ご相談窓口にご相談ください（➔34 ページ)。 ● LAN に接続している場合は、サーバーの日付と時間を確認してください。 ● 本機では、西暦 2100 年以降は日付と時刻が正しく認識されません。

■ 電源を入れたとき

[バッテリー残量表示補正ユーティリティ] 画面が表示される。	● バッテリー残量表示補正を実行したとき、Windows が正しい手順で終了しなかったため補正が中断されました。補正を中止し、Windows を起動するには、パソコンの電源をいったん切り、再度電源を入れてください。
スタンバイ／休止状態からリジュームしたとき、「パスワードを入力してください」が表示されない。	● リジュームの際は、セットアップユーティリティで設定したパスワードは要求されません。 リジューム時のセキュリティには、Windows のパスワードをお使いください。 ① [スタート] - [コントロールパネル] - [ユーザーアカウント] をクリックして、変更するアカウントをクリックし、パスワードを設定する。 ② [スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [電源オプション] - [詳細設定] をクリックし、[スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める] にチェックマークを付ける。
リジュームできない。	● スクリーンセーバーの表示中に自動的にスタンバイまたは休止状態に入ると、エラーが起こる場合があります。その場合は、スクリーンセーバーをオフにするか、別のスクリーンセーバーに変更してください。
その他の起動時のトラブル	● セットアップユーティリティで F9 を押して（➔23 ページ「セットアップユーティリティの起動方法」）、設定（パスワード設定を除く）を工場出荷時の設定に戻してください。再度セットアップユーティリティを起動し、各種設定をしてください。 ● 周辺機器をすべて取り外してください。 ● ディスクのエラーをチェックしてください。 ① [スタート] - [マイコンピュータ] をクリックし、[ローカルディスク（C:）] を右クリックして、[プロパティ] をクリックする。 ② [ツール] - [チェックする] をクリックする。 ③ [チェックディスクのオプション] で項目にチェックマークを付け、[開始] をクリックする。 ● 下記の方法で、パソコンをセーフモードで起動し、エラーの内容を確認してください。起動時、[Panasonic] 起動画面が消えたとき [*1] に、F8 を押し続け、「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されたら指を離す。 *1 セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューで「起動時のパスワード」を「有効」に設定している場合、「Panasonic」起動画面が消えた後「パスワードを入力してください。」が表示されます。 パスワードを入力し、Enter を押してすぐに F8 を押し続けてください。

■ パスワード入力

[パスワードを入力してください] の画面で、ビープ音が鳴ってパスワードが入力できない。	● NumLk ランプ 1 の点灯中は、キーボードがテンキーモードになっています。NumLk を押して解除してください。
パスワードを入力しても再度入力を求められる。	● NumLk ランプ 1 の点灯中は、キーボードがテンキーモードになっています。NumLk を押して解除してください。 ● Caps Lock ランプ A の点灯中は、キーボードが大文字入力モードになっています。Shift + Caps Lock を押して解除してください。

■ 終了時

Windows を終了できない。	● USB 機器とエクスプレスカードを取り外してください。 ● 1 ～ 2 分お待ちください。 故障ではありません。

■ ディスプレイ

画面に何も表示されない。	● 外部ディスプレイ使用時は、 • ケーブルの接続を確認してください。 • 外部ディスプレイの電源を入れてください。 • 外部ディスプレイの設定を確認してください。 • Fn + F3 を押して、画面を切り替えてください。 続けて Fn + F3 を押す場合は、画面の表示先が完全に切り替わるまでお待ちください。 ● 省電力機能によって、ディスプレイの電源が切れています。 リジュームするには、選択に使うキーは押さず、Ctrl などのキーを押してください。 ● 省電力機能によって、パソコンがスタンバイ・休止状態に入りました。 リジュームするには、電源スイッチをスライドしてください。

■ ディスプレイ

画面が暗い。	● AC アダプターが接続されていないと画面が暗くなります。Fn + F2を押して、輝度を調整してください。ただし、輝度を上げるとバッテリーの消耗が早くなります。 AC アダプターを接続しているときと接続していないときの輝度は、別々に保存されます。
Fn+F2 を押しても、画面が明るくならない。	● 周囲の温度が高い場合、誤作動を防ぐため輝度が低く設定されます。5 ℃～ 35 ℃の温度環境でお使いください。
AC アダプターを取り外したとき、LCD の輝度が数回変わる。	● インテル（R）ディスプレイ省電テクノロジが働き、LCD の輝度を自動的に変化させています。故障ではありません。
写真その他の画像を表示すると、画像の色が思うように再現できない。	● インテル（R）ディスプレイ省電テクノロジのチェックマークを外してください。 ① [スタート] - [コントロールパネル] - [コントロールパネルのその他のオプション] -[Intel(R) GMA Driver for Mobile] をクリックする。 ② [ディスプレイ設定] - [電源設定] をクリックする。
画面が乱れる。	● 解像度や色数を変更すると画像が乱れることがあります。パソコンを再起動してください。 ● 外部ディスプレイの接続や取り外しを行うと、画像が乱れることがあります。パソコンを再起動してください。
同時表示または拡張デスクトップモード時に片方の画面が乱れる。	● 拡張デスクトップモード時は、内部 LCD と外部ディスプレイを同じ色設定にしてください。 ● それでも問題が解決しない場合は、下記の操作でディスプレイを変更してみてください。 [スタート] - [コントロールパネル] - [コントロールパネルのその他のオプション] -[Intel(R) GMA Driver for Mobile] - [ディスプレイデバイス] をクリックする。 ● Alt + Enterを押して、[コマンドプロンプト] を全画面表示にすると、片方の画面にのみ表示されます。 Alt + Enterを押してウィンドウ表示に戻すと、両方の画面に表示されます。 ● Windows が完全に起動し終わるまで、同時画面表示を行うことはできません。（セットアップユーティリティの間など）。
外部ディスプレイが正しく動作しない。	● 外部ディスプレイが省電力機能に対応していない場合、パソコンが省電力モードに入ると正しく動作しなくなることがあります。 外部ディスプレイの電源を切ってください。

■ フラットパッド／タッチパネル（タッチパネル付属モデルのみ）

カーソルが動かない。	● 外部マウスを使用している場合は、正しく接続し直してください。 ● キーボードを操作して、パソコンを再起動してください。 （、U、Rを押して、[再起動] を選択してください。） ● キーボードで操作できない場合は、「応答がない」（➔27 ページ）をご覧ください。
フラットパッドを使って入力できない。	● セットアップユーティリティの「メイン」メニューで「フラットパッド」を「有効」に設定してください。 ● マウスのドライバーによっては、フラットパッドが使えないことがあります。 マウスの取扱説明書でご確認ください。
付属のスタイラスペンで正しい位置を指定できない。	● タッチパネルの補正（キャリブレーション）を実行してください（➔12 ページ）。

■ 操作マニュアル

操作マニュアルが表示されない。	● Adobe Reader をインストールしてください。 ① コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。 ② [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックし、[c:¥util¥reader¥AdbeRdr70_jpn_full.exe] と入力して、[OK] をクリックする。 画面の指示に従って操作してください。 ③ Adobe Reader を最新バージョンにアップデートする。 パソコンがインターネットに接続されている場合は、Adobe Reader を起動し、[ヘルプ] - [アップデートの有無を今すぐチェック] をクリックする。 画面の指示に従って操作してください。

■ **Recover Pro**

Recover Pro をインストールできない。	● パーティションが 4 つあると、Recover Pro はインストールできません。また、OS 用・Recover Pro 用を含め、パーティションは 3 つまでにしてください（➔16 ページ）。下記の操作でパーティションの数を確認することができます。 [スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [管理ツール] - [コンピュータの管理] - [ディスクの管理] をクリックする。 ● Recover Pro は、バックアップ領域がハードディスクに残っているとインストールすることができません。以下のいずれかの方法をお試しください。 • バックアップ領域にある完全バックアップデータを復元する 「ハードディスクバックアップ機能 (Recover Pro)」の「完全復元」の説明 (➔19 ページ) に従い、データを復元してください。 • パソコンを工場出荷時の状態に戻す Windows を再インストールしてください。(➔21 ページ) • 22 ページの手順 **2** の ③ で、「3」（最初のパーティションに Windows を再インストールする）を選ばないでください。 • OS 用・Recover Pro 用を含めパーティションが 4 つ存在する場合、Windows を再インストールすると 4 番目のパーティションが削除されます。削除されたデータは元に戻すことはできません。 • バックアップ領域のデータが不要または壊れている場合、または完全バックアップデータがない場合 ① 下記ホームページ（英語のみ）にアクセスし、「Cleanup Utility for Recover Pro 6」をダウンロードする。 http://www.phoenix.com/en/Customer+Services/Utilities/Recover+Pro+6.htm#Where ②「Cleanup Utility for Recover Pro 6」を使ってバックアップ領域を削除する。 ③ Recover Pro を再度インストールする。 バックアップ領域のデータはすべて削除されます。
Recover Pro がインストールされているのに、バックアップ領域が存在しない。	● Windows の再インストール時に、バックアップ領域が削除された可能性があります。OS 用・Recover Pro 用を含めパーティションが 4 つ存在する場合、Windows を再インストールすると 4 番目のパーティションが削除されます。削除されたデータは元に戻すことはできません。新しくバックアップ領域を作成するには、下記の操作で Recover Pro をアンインストールし、再度インストールしてください。 [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] をクリックする。
Recover Pro がインストールされていないのに、不要なバックアップ領域が存在している。	● 下記の手順でバックアップ領域を削除してください。 ① 下記ホームページ（英語のみ）にアクセスし、「Cleanup Utility for Recover Pro 6」をダウンロードする。 http://www.phoenix.com/en/Customer+Services/Utilities/Recover+Pro+6.htm#Where ②「Cleanup Utility for Recover Pro 6」を使ってバックアップ領域を削除する。
ハードディスクにファイルバックアップができない領域がある。	● セキュリティソフトウェアで暗号化されたハードディスク領域は、バックアップされないことがあります。 ファイルバックアップの対象からその領域を除外してください。

■ **その他**

応答がない。	● **Ctrl** + **Shift** + **Esc** を押してタスクマネージャを起動し、応答のないアプリケーションソフトを終了してください。 ● 入力待ち画面（起動時のパスワード入力画面など）が別のウィンドウで隠れていませんか？ **Alt** + **Tab** を押して確認してください。 ● 電源スイッチを 4 秒間以上スライドして電源を切った後、再度電源スイッチをスライドして電源を入れてください。 アプリケーションソフトが正しく動作しない場合は、下記の操作でそのソフトをアンインストールし、再度インストールしてください。 [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] をクリックする。

ハードウェアの自己診断機能

本機のハードウェアが正常に動作していない可能性がある場合は、PC-Diagnostic ユーティリティを使って診断することができます。
ハードウェアに問題が発見されたときは、ご相談窓口にご相談ください（➔34 ページ）。

PC-Diagnostic ユーティリティで診断できるハードウェア

下記のハードウェアを診断することができます（ソフトウェアを診断することはできません）。

- CPU
- メモリー
- ハードディスク
- CD/DVD ドライブ
- ビデオコントローラー
- サウンドコントローラー [*1]
- モデム
- LAN 機能
- 無線 LAN 機能 [*2]
- Bluetooth 機能 [*3]
- USB
- IEEE1394 機器
- PC カードコントローラー
- SD カードコントローラー
- シリアルポート
- キーボード
- フラットパッド
- タッチパネル [*4]

[*1] 診断中に、大きなビープ音が鳴りますので、ヘッドホンを使わないでください。
（Windows メニューで音声をオフにしている場合は、ビープ音は鳴りません。）
[*2] 無線 LAN 内蔵モデルのみ
[*3] Bluetooth 内蔵モデルのみ
[*4] タッチパネル内蔵モデルのみ

PC-Diagnostic ユーティリティについて

お知らせ

- セットアップユーティリティの設定を工場出荷時の状態に戻して診断を実行してください。セットアップユーティリティその他の設定でハードウェアが無効になっていると、そのハードウェアのアイコンがグレー表示されます。
- PC-Diagnostic ユーティリティが起動すると、標準診断がスタートします。
- ハードディスクとメモリーについては、標準診断と拡張診断のいずれかを選択できます。拡張診断は詳細な診断を行うため、終了するまで時間がかかります。
- ビデオコントローラー診断の実行中に、画面が乱れることがあります。また、サウンドコントローラー診断の実行中に、スピーカーから音が出ることがあります。いずれも故障ではありません。
- 診断状況は、ハードウェアアイコンの左側に表示されるバー（A）の色で確認できます。
  - 水色：診断を実行していません。
  - 青色と黄色が交互に点滅：診断を実行中です。点滅の間隔は、標準診断か拡張診断かにより異なります。メモリー診断の場合は、画面が長い間停止状態になる場合があります。 診断が終了するまでお待ちください。
  - 緑色： 問題は見つかりませんでした。
  - 赤色： 問題が見つかりました。

A

- 操作にはフラットパッドを使用することをお勧めします。フラットパッドを使わない場合は、内蔵キーボードをお使いください。

操作内容	フラットパッド操作	内蔵キーボード操作
アイコンを選ぶ。	アイコンの上にカーソルを置く。	**Space** を押し、→ ← ↑ ↓ を押す（⊠（閉じる）は選択できません）。
アイコンをクリックする。	クリックする（右クリックは使えません）。	アイコンの上で **Space** を押す。
PC-Diagnostic ユーティリティを終了し、パソコンを再起動する。	⊠（閉じる）クリックする。	**Ctrl**+**Alt**+**Del** を押す。

- 画面上のアイコンをクリックして、次の操作をすることができます。
  - ▶ : 診断を最初から実行する。
  - ■ : 診断を中止する。（▶ をクリックしても、途中から再開することはできません。）
  - i : ヘルプを表示する。（画面をクリックするか、**Space** を押すと元の画面に戻ります。）

困ったときは

診断を実行する

診断を実行する前に、すべての周辺機器（記憶装置など）を取り外してください。

1　AC アダプターを接続する。(➔10 ページ)

診断が完了するまで、AC アダプターを取り外したり、周辺機器を取り付けたりしないでください。

2　<無線 LAN ／ Bluetooth 内蔵モデルのみ>
無線スイッチ (➔7 ページ) の電源を入れる。

3　パソコンの電源を入れるか再起動し、[Panasonic] 起動画面が表示されている間に、F2 を数回押す。

セットアップユーティリティが起動します。

- パスワード入力画面が表示されたら、スーパーバイザーパスワードを入力してください。
- セットアップユーティリティを工場出荷時の設定から変更している場合は、設定をメモしておくことをお勧めします。

4　F9 を押す。

確認メッセージで「はい」を選び、Enterを押してください。

5　F10 を押す。

確認メッセージで「はい」を選び、Enterを押してください。
パソコンが再起動します。

6　[Panasonic] 起動画面が表示されている間に、 Ctrl+F7 を押す。

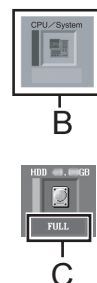
PC-Diagnostic ユーティリティが起動すると、すべてのハードウェアの診断が順番に始まります。

- パスワード入力画面が表示されたら、パスワードを入力してください。
- ハードウェアアイコンの左側のバーが青色と黄色に交互に点滅し始めるまで、フラットパッドと内蔵キーボードは使えません。フラットパッドが正常に動作しない場合は、Ctrl+Alt+Del を押すか、電源スイッチをスライドして電源を切り、パソコンを再度起動してから PC-Diagnostic ユーティリティを起動してください。

お知らせ

- 以下の手順で、特定のハードウェアの診断を実行したり、ハードディスクやメモリーの拡張診断を実行したりすることができます。
  ① ■をクリックして診断を中止する。
  ② 診断しないハードウェアのアイコンをクリックし、グレー表示（B）させる。
  ハードディスクまたはメモリーの診断を実行しているときは、アイコンを一度クリックすると拡張診断（「FULL」(C) がアイコンの下に表示されます）になりますので、再度クリックしてアイコンをグレー表示させてください。
  ③ ▶をクリックして診断を開始する。

B

C

7　すべてのハードウェアの診断が終わったら、診断結果を確認する。

バーの色が赤色になり、「Check Result TEST FAILED」が表示されたら、ハードウェアに問題があると考えられます。赤色のハードウェアを確認し、ご相談窓口にご相談ください（➔34 ページ）。
バーの色が緑色になり、「Check Result TEST PASSED」が表示されたら、ハードウェアは正常に動作しています。 そのままパソコンをお使いください。それでもパソコンが正しく動作しない場合は、ソフトウェアを再インストールしてください (➔21 ページ)。

お知らせ

- RAM モジュール（別売り）を増設してメモリーの診断を実行し、「Check Result TEST FAILED」が表示された場合は、増設した RAM モジュールを取り外し、診断を実行してください。再び「Check Result TEST FAILED」のメッセージが表示された場合は、内蔵 RAM モジュールに問題があると考えられます。

8　☒（閉じる）をクリックするか、Ctrl+Alt+Delを押してパソコンを再起動する。

ソフトウェア使用許諾書

第 1 条　権利
お客さまは、本ソフトウェア（コンピューター本体に内蔵のハードディスク、付属のマニュアルや CD-ROM などに記録または記載された情報のことをいいます）の使用権を得ることはできますが、著作権がお客さまに移転するものではありません。

第 2 条　第三者の使用
お客さまは、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

第 3 条　コピーの制限
本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

第 4 条　使用コンピューター
本ソフトウェアは､本コンピューター1 台での使用とし､他のコンピューターで使用することはできません。

第 5 条　解析、変更または改造
本ソフトウェアの解析、変更または改造などを行わないでください。お客さまの解析、変更または改造により、万一何らかの欠陥またはお客さまに対する損害が生じたとしても弊社および販売店などは一切の保証・責任を負いません。

第 6 条　アフターサービス
お客さまが使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社窓口まで電話または文書でお問い合わせくだされば、お問い合わせの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

第 7 条　免責
本ソフトウェアに関する弊社および販売店などの責任は、上記第 6 条に限ります。本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客さまの損害および第三者からのお客さまに対する請求については、弊社および販売店などに故意または重過失がない限り、弊社および販売店などはその責任を負いません。

第 8 条　合意管轄
本ソフトウェアの使用に関して、訴訟の必要が生じた場合、お客さまおよび弊社は弊社の本社所在地を管轄する裁判所に対してのみ訴えを提起することができるものとします。

第 9 条　準拠法
本ソフトウェアの使用はあらゆる面において日本国の法律に支配され、かつそれに従って解釈されるものとします。

第 10 条　輸出管理
お客さまが、本ソフトウェアを日本国外に持ち出される場合、国内外の輸出管理に関連する法規を順守してください。

仕様 日本国内専用

本製品（付属品を含む）は日本国内仕様であり、海外の規格などには準拠しておりません。

■ 本体仕様

機種名		CF-30FW1AXS
CPU ／ 2 次キャッシュメモリー		インテル ® Core2 ™ Duo プロセッサー低電圧版 L7500、オンダイ L2 キャッシュ 4MB*1、動作周波数 1.6 GHz、フロントサイド・バス 800 MHz
チップセット		モバイルインテル ® GM965 チップセット
メインメモリー *1*2		標準 1024 MB（最大 2048 MB）
ビデオメモリー *1*3		最大 384 MB（メインメモリーと共用）
ハードディスクドライブ *4		80 GB（このうち約 3 GB はリカバリー用データ領域として使用（ユーザー使用不可））
表示方式		13.3 型 TFT カラー液晶（XGA、タッチパネル付き）
	内部 LCD *5	65536 色／約 1677 万色（800 × 600 ドット／ 1024 × 768 ドット）
	外部ディスプレイ *6	65536 色／約 1677 万色（800 × 600 ドット／ 1024 × 768 ドット／ 1280 × 768 ドット／ 1280 × 1024 ドット／ 1440 × 900 ドット）
無線 LAN*7		➔32 ページ
LAN		10BASE-T ／ 100BASE-TX ／ 1000BASE-T
モデム		データ：56 kbps（V.90）FAX: 14.4 kbps
サウンド機能		PCM 音源（16 ビットステレオ）、インテル ® High Definition Audio 準拠、モノラルスピーカー
セキュリティチップ		TPM（TCG V1.2 準拠）*8
カードスロット	PC カード	Type I または Type II x 1（許容電流 3.3 V: 400 mA, 5 V: 400 mA）
	エクスプレスカード	エクスプレスカード /34 *9 またはエクスプレスカード /54 x 1
	SD メモリーカード *10	x 1（著作権保護技術対応）、SDHC 対応 *11
拡張メモリースロット		x 1（DDR2 SDRAM、200 ピン、1.8 V、SO-DIMM、PC2-4200）
インターフェース		USB ポート（Universal Serial Bus 2.0 準拠、4 ピン）x 3、シリアルポート（RS232C D-sub 9 ピン）x 1、モデムコネクター（RJ-11）x 1、LAN コネクター（RJ-45）x 1、外部ディスプレイコネクター（アナログ RGB ミニ D-sub 15 ピン）x 1、拡張バスコネクター（80 ピン）x 1、IEEE 1394a コネクター（4 ピン）x 1、マイク入力端子（ステレオミニジャック M3（コンデンサーマイクを使用のこと））x 1、オーディオ出力端子（ステレオミニジャック M3、インピーダンス 32 Ω 出力 4 mW×2）x 1
キーボード／ポインティングデバイス		OADG 準拠、Windows キーボード（88 キー）／フラットパッド／タッチパネル [AR（Anti-Reflection）処理]、スタイラスペン（付属）使用
電源		AC アダプターまたはバッテリーパック
AC アダプター *12		入力：AC 100 V ～ 240 V、50 Hz/60 Hz、出力 : 15.6 V DC、5.0 A、電源コード : 125 V 対応
バッテリーパック		10.65 V（Li-ion）、8.55 Ah
	駆動時間 *13	内蔵バッテリーのみ：約 8 時間 内蔵バッテリー + 拡張バッテリー：約 12 時間
	充電時間 *14 電源オン時	内蔵バッテリーのみ：約 8.5 時間 内蔵バッテリー + 拡張バッテリー：約 12.5 時間
	充電時間 *14 電力オフ時	内蔵バッテリーのみ：約 5 時間 内蔵バッテリー + 拡張バッテリー：約 8 時間
クロックバッテリー		コイン型リチウムバッテリー 3.0 V
消費電力／エネルギー消費効率 *15		最大約 70 W*16 ／ 2007 年度基準　I 区分 0.00038 （社）電子情報技術産業協会 情報処理機器 高調波電流抑制対策実行計画書に基づく定格入力電力値：42W　23-J-1-1
外形寸法（幅 x 高さ x 奥行き）		302 mm × 67.5 ～ 69.5 mm × 285 mm（ハンドルを含む）（突起部を除く）
質量		約 3.8 kg（ハンドルを含む）（ダミーカード・ダミーパック（約 50 g）を除く）
使用環境条件		温度：5 ˚C ～ 35 ˚C 湿度：30% ～ 80%（結露なきこと）
保管環境条件		温度：-20 ˚C ～ 60 ˚C 湿度：30% ～ 90% RH（結露なきこと）

仕様 日本国内専用

■ 本体仕様

OS	Microsoft® Windows® XP Professional 正規版 Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載（NTFS ファイルシステム）
導入済みソフトウェア	DMI ビューアー、Microsoft® Windows® Media Player 10、Adobe Reader、PC 情報ビューアー、SD ユーティリティ、フォントサイズ拡大ユーティリティ、ズームビューアー、Intel® Matrix Storage Manager、無線切り替えユーティリティ、ネットセレクター、Hotkey 設定、バッテリー残量表示補正ユーティリティ、Panasonic 手書き、Infineon TPM Professional Package*17、Recover Pro™ 6*17
	セットアップユーティリティ、ハードディスクデータ消去ユーティリティ *18、PC-Diagnostic ユーティリティ

■ 無線 LAN 内蔵モデルのみ

インテル ® PRO / Wireless 4965 AG (802.11 a + b + g)	
データ転送速度 *19	IEEE802.11a: 54 Mbps / 48 Mbps / 36 Mbps / 24 Mbps / 18 Mbps / 12 Mbps / 9 Mbps / 6 Mbps（自動切替） IEEE802.11b: 11 Mbps / 5.5 Mbps / 2 Mbps / 1 Mbps（自動切替） IEEE802.11g: 54 Mbps / 48 Mbps / 36 Mbps / 24 Mbps / 18 Mbps / 12 Mbps / 9 Mbps / 6 Mbps（自動切替）
準拠規格	ARIB STD-T66 / ARIB STD-T71 IEEE802.11a（J52 / W52 / W53）/ IEEE802.11b / IEEE802.11g（無線 LAN 標準プロトコル）
伝送方式	OFDM 方式、DS-SS 方式
有効距離 *20	IEEE802.11a: 見通し約 30 m 、IEEE802.11b/g: 見通し約 50 m（アクセスポイントとの通信時）
使用無線チャンネル	インフラストラクチャ通信モード : IEEE802.11a: 34 / 38 / 42 / 46 チャンネル（J52）、36 / 40 / 44 / 48 チャンネル（W52）、52 / 56 / 60 / 64 チャンネル（W53）IEEE802.11b / g: 1 ～ 13 チャンネル ad hoc 通信モード : IEEE802.11a: 36 / 40 / 44 / 48 チャンネル IEEE802.11b / g: 1 ～ 13 チャンネル
RF 周波数帯域	2.4 GHz 帯全域（2.4 GHz ～ 2.4835 GHz）、5 GHz 帯域（5.15 GHz ～ 5.35 GHz）*21

■ Bluetooth ™ 内蔵モデルのみ

伝送方式	FHSS 方式
使用無線チャンネル	1 ～ 79 チャンネル
RF 周波数帯域	2.402 GHz ～ 2.48 GHz

*1 1 MB = 1,048,576 バイト
*2 メモリーは 1024 MB まで増設することができますが、システム構成によっては、使用可能メモリーの合計はそれより少なくなります。
*3 パソコンの動作状況により、メインメモリーの一部が自動的に割り当てられます。サイズを設定しておくことはできません。
*4 1 GB=1,000,000,000 バイト。OS または一部のアプリケーションソフトでは、これよりも小さな数値で GB 表示される場合があります。
ディスクユーティリティなど使用時は NTFS 対応のものをご使用ください。
*5 グラフィックアクセラレーターのディザリング機能を使用して約 1677 万色表示を実現しています。
*6 接続する外部ディスプレイによっては表示できない場合があります。解像度、リフレッシュレートについては、パナソニックパソコンのサポートページ（http://askpc.panasonic.co.jp/index.html）の「よくある質問」をご覧ください。
*7 無線 LAN 内蔵モデルのみ
*8 TPM について、詳しくは 『内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き』をご覧ください。（[スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックし、「c:¥util¥drivers¥tpm¥README.pdf」と入力する。）
*9 エクスプレスカード /34 使用時は、カードスロットが閉まりません。
*10 High Speed Mode に対応。
容量 8 GB までの Panasonic 製 SD メモリーカードおよび SDHC メモリーカードの動作を確認済み。
すべての SD 機器との動作を保証するものではありません。
本機はマルチメディアカードには対応していません。 マルチメディアカードは挿入しないでください。
*11 理論値であり、実効速度とは異なります。 高速転送速度に対応しているカードを使っても、転送速度は速くなりません。
*12 本製品は一般家庭用の電源コードを使用するため、AC100 V のコンセントに接続して使用してください。（➔4 ページ）20-J-1
*13 JEITA バッテリー動作時間測定法（Ver.1.0）による駆動時間。バッテリー駆動時間は、動作環境／システム設定により変動します。
*14 バッテリー充電時間は動作環境・システム設定により変動します。
*15 エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
*16 約 0.9 W：バッテリーパック満充電時（または充電中でないとき）で、かつパソコンの電源切のとき。
*17 使用するにはインストールが必要です。
*18 セットアップユーティリティから実行するユーティリティ。
*19 IEEE802.11a/b/g 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
*20 有効距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーションソフト、OS などの使用条件によって異なります。
*21 IEEE802.11a 準拠の無線 LAN は、無線通信に 5 GHz 帯を使用しています。5 GHz 帯の無線 LAN は、電波法の規制により、屋外および日本国外では使用できません。

- 本機のモデムは下記の国または地域の規格に準拠しています。
  アイスランド、アイルランド、アメリカ、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、アンドラ、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、ウクライナ、ウルグアイ、エクアドル、エストニア、エジプト、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、韓国、キプロス、ギリシャ、クウェート、クロアチア、サウジアラビア、サンマリノ、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、台湾、チェコ、チリ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、バチカン市国、パラグアイ、ハンガリー、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ブルネイ、ペルー、ベルギー、ベネズエラ、ポーランド、ポルトガル、ホンジュラス、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ共和国、モナコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、リヒテンシュタイン、ルーマニア、ルクセンブルク、ロシア　（2007 年 10 月 1 日現在）
  日本国内でお使いになる場合は､以下の手順で[国／地域]を[日本]に設定してください。(工場出荷時は日本に設定されています。)
  ① [スタート]-[コントロールパネル]-[プリンタとその他のハードウェア]-[電話とモデムのオプション] をクリックする。
  ② [ダイヤル情報] をクリックし、[編集] をクリックする。
  ③ [全般] をクリックし、[国／地域] を [日本（Japan）] に設定して [OK] をクリックする。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。　2-J-1

・ 本装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じる場合があります。
（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）　3-J-1-1
・ 漏洩電流について、この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。　4-J-1

重要なお知らせ
- お客さまの使用誤り、その他異常な条件下での使用により生じた損害、および本機の使用または使用不能から生ずる付随的な損害について、当社は一切責任を負いません。
- 本機は、医療機器、生命維持装置、航空交通管制機器、その他人命にかかわる機器 / 装置 / システムでの使用を意図しておりません。本機をこれらの機器 / 装置 / システムなどに使用され生じた損害について、当社は一切責任を負いません。
- お客さままたは第三者が本機の操作を誤ったとき、静電気などのノイズの影響を受けたとき、または故障 / 修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータなどが変化 / 消失するおそれがあります。大切なデータおよびソフトウェアを思わぬトラブルから守るために、➔14 ～ 17 ページの内容に注意してください。

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報
この記号はヨーロッパ連合内でのみ有効です。
本製品を廃棄したい場合は、日本国内の法律等に従って廃棄処理をしてください。　36-J-1

＜無線 LAN ／ Bluetooth 内蔵モデルのみ＞
日本国内で無線 LAN ／ Bluetooth をお使いになる場合のお願い
この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
② 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止したうえ、ご相談窓口にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えばパーティションの設置など）についてご相談ください。
③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときには、ご相談窓口にお問い合わせください。

＜無線 LAN 内蔵モデルのみ＞
2.4DS/OF4
この機器が、2.4 GHz 周波数帯（2400 から 2483.5 MHz）を使用する直接拡散（DS）方式／直交周波数分割多重変調（OF）の無線装置で、干渉距離が約 40 m であることを意味します。　25-J-2-1

＜ Bluetooth 内蔵モデルのみ＞
2.4FH8
この機器が、2.4 GHz 周波数帯（2400 から 2483.5 MHz）を使用する周波数ホッピング（FH）方式の無線装置で、干渉距離が約 80 m であることを意味します。

＜無線 LAN 内蔵モデルのみ＞
5 GHz 帯の無線 LAN をお使いになる場合のお願い
5 GHz 帯の無線 LAN は、電波法の規制により、屋外および日本国外では使用できません。

保証とアフターサービス

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

- 修理は、「サポートデスク」へ！
- その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間 6 年

当社は、このパソコンの補修用性能部品を、製造打ち切り後 6 年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 海外での使用について

本製品は日本国内仕様であり、海外の規格などには準拠しておりません。海外での使用について、当社では一切責任を負いかねます。
また、当社では本製品に関する海外でのアフターサービスおよび消耗品、別売品の供給は行っておりません。
This product cannot be used in foreign country as designed for Japan only.

修理を依頼されるとき

「困ったときの Q&A」（本書および『操作マニュアル』）に従ってご確認の後、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、サポートデスクへご連絡ください。
修理時に、当社指定の宅配業者が専用梱包箱を持ってパソコン修理品の引き取りにお伺いし、修理が完了した後、直ちに宅配業者がお届けする、早くて便利な修理サービスを実施しております。

- 保証期間中は
  保証書の規定に従って修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品と保証書をご準備いただき、サポートデスクにご相談ください。また、引き取り修理の送料は当社が負担させていただきます。
- 保証期間を過ぎているときは
  修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。また、引き取り修理の送料はお客さまのご負担となります。
- 修理料金の仕組み
  修理料金は、技術料・部品代・送料などで構成されています。
  技術料 は、診断・故障個所の修理および部品の交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
  部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
  送料 は、お客さまのご依頼により修理品を引き取り、またはお届けする場合の費用です。
- ご連絡いただきたい内容

製品名	パーソナルコンピューター
品番	保証書に記載されています。 （例：CF-30FW1AXS）
お買い上げ日	年　　月　　日
故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://askpc.panasonic.co.jp/index.html

● 修理に関するご相談は…

サポートデスク

電　話 フリーダイヤル **0120-05-8729**
フリーダイヤルがご利用できない場合は
011-330-1911
ＦＡＸ ナビダイヤル（全国共通番号） **0570-00-8742**
ナビダイヤルがご利用できない場合は
011-330-1912
受付時間　9 時～ 21 時
年末年始（12/30 ～ 1/4）を除く

● 使い方・お手入れなどのご相談は…

パナソニックパソコンお客様ご相談センター 365日 受付9時～20時

電　話 フリーダイヤル **0120-873029**（パナソニック）
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。
※発信者番号通知のご協力をお願いいたします。
非通知に設定されている場合は
「186-0120-873029」におかけください
（はじめに「186」をダイヤル）。
• 上記電話番号がご利用いただけない場合（発信者番号を非通知でお電話いただく場合を含む）は
(06)6905-5067
ＦＡＸ **(06)6905-5079**
365日／受付9時～20時
（パソコン製品の使い方や技術的なご質問も承っております。）
※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。
ご了承ください。

2011 年 4 月 1 日現在

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い
パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客さまの個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

消耗品・有寿命部品について

パソコンの部品は、使用しているうちに少しずつ劣化・磨耗します。また、一部の部品の劣化・磨耗が原因で、製品としての性能が十分に発揮されない場合があります。
パソコンを長く、安全に使用していただくためには、劣化・磨耗した部品を交換することが必要です。
当社では、劣化・磨耗の進み方の違いによって、部品を消耗品と有寿命部品に分類して扱っています。

種類	部品	備考
消耗品	バッテリーパック 保護フィルム スタイラスペン スタイラスペン用ケーブル	・お客さまご自身で購入し、交換していただく部品です。 ・保証期間内でも有償です。
有寿命部品	ハードディスクドライブ LCD（液晶ディスプレイ） キーボード AC アダプター リチウム電池	・修理による再生ができない場合（部品の寿命）に交換する部品です。 ・保証期間内の修理は無償ですが、部品の寿命による交換は、有償になる場合があります。 ※有寿命部品の交換の目安は、事務室で 8 時間 /1 日、250 日 /1 年の使用で約 5 年です。ただし、昼夜連続して使用するなど、使用状態によっては保証期間内でも部品の寿命による交換が必要になる場合があります（有償になる場合があります）。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリおよび複写機などのオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

22-J-1

愛情点検　長年ご使用のコンピューターの点検を！

こんな症状はありませんか	・異常な音やにおいがする ・水や異物が入った

このような症状のときは故障や事故防止のため、電源を切って電源プラグを抜き、その後バッテリーパックを取り外して、必ずご相談窓口に点検をご依頼ください。

パナソニック株式会社　IT プロダクツビジネスユニット

〒 570-0021　大阪府守口市八雲東町一丁目 10 番 12 号

Printed in Japan

HS1007-2088_WEB
DFQW5127YA